

芸術文化に関する基本的な考え方
・長崎市の芸術文化に関する施策

文化芸術基本法(平成29年公布)

(前文:抜粋)
文化芸術は、人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり、世界の平和に寄与するものである。

劇場、音楽堂等の活性化に関する法律(平成24年公布)

- (前文:抜粋)
- 劇場、音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である。
 - 全ての国民が、潤いと誇りを感じることでできる心豊かな生活を実現するための場として機能しなくてはならない。
 - 現代社会においては、人々の共感と参加を得ることにより「新しい広場」として、地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展を支える機能も期待されている。
 - 国際化が進む中では、国際文化交流の円滑化を図り、国際社会の発展に寄与する「世界への窓」にもなることが望まれる。

長崎市第四次総合計画

- (施策の方向性)
- 芸術文化に触れる機会の創出
 - 市民が利用しやすい文化施設の整備・運営を行い、市民の芸術文化活動の拠点としての機能の充足に努めます。
 - 市民が芸術文化を親しみ心豊かに生活できるよう、身近な場所で芸術文化に触れる機会の創出に努めます。
 - 自主的な芸術文化活動の活性化
 - 芸術文化を支える人材が育ち、芸術文化活動を通じて、世代間の交流や地域との交流が生まれ、地域の文化や芸術が継承される環境づくりに努めます。
 - 市民の自主的な芸術文化活動の活性化と質の向上に努めます。

長崎市民文化活動振興プラン
(平成9年度策定、平成25年度第2次改訂)

- 芸術文化に親しむ機会の創出(広げる)
 - 芸術文化を担う人材育成(育む)
 - 市民文化活動を支える環境の整備(支える)
- 市民ニーズに対応した文化施設の充実
多様化する芸術文化と市民ニーズに対応するため、音楽・演劇などに利用できる高機能な文化施設の整備や運営に取り組みます。

長崎市の文化環境の現状分析

長崎市公会堂の廃止以降、長崎市のホール型施設(※)は、長崎ブリックホール(大ホール・国際会議場)、長崎市民会館文化ホール、長崎市チトセピアホール、メルカつきまち市民生活プラザホールがあります。

■ホールの稼働率

ホール型施設の稼働率は、概ね60%から80%程度で推移しています。長崎市公会堂の閉館に伴い、平成27年度以降は、ブリックホール大ホールの稼働率が大きく上昇しています。

■利用者数

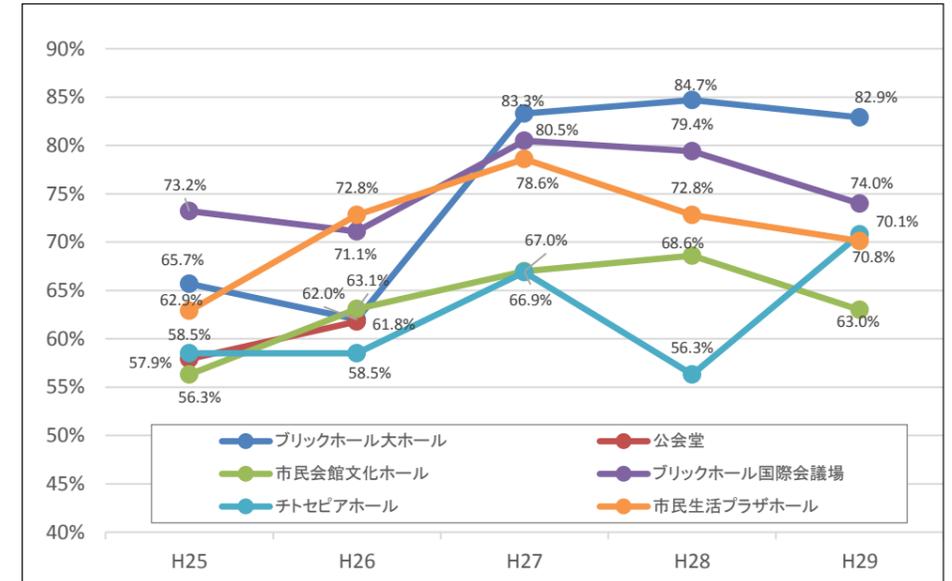
ホール型施設の利用者の総数は、長崎市公会堂の閉館以降、約7万人減少しています。

■練習室・リハーサル室の利用状況

ブリックホールの練習室・リハーサル室の利用状況を見ると、練習室は約95%、リハーサル室は約83%の稼働率となっており、非常に高くなっています。

(※)ホール型施設
「長崎市公共施設の利用別適正化方針」の分類
(大分類)市民利用型施設-(中分類)文化の振興を図る施設-(小分類)ホール型施設

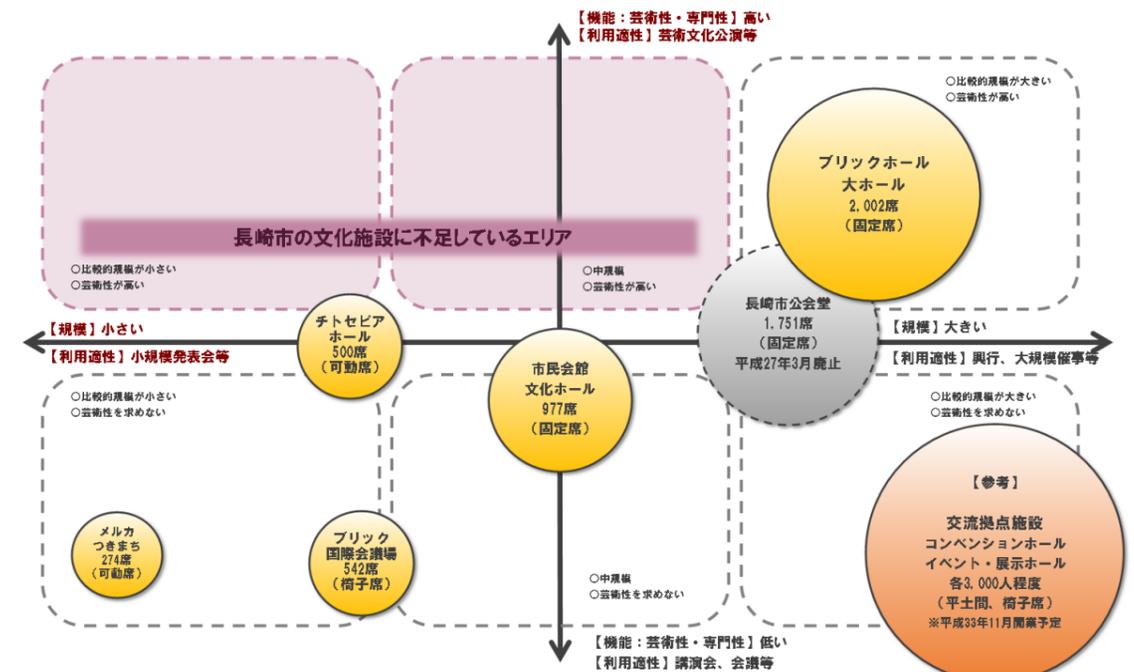
【ホール型施設の稼働率の推移(平成25~29年度)】



長崎市内の文化施設の現状と主な課題

- ◆市民の芸術文化活動の発表の場、練習・創造の場、市民の芸術文化の鑑賞の場が不足している。
- ◆芸術性や専門性の高い公演に対応できる機能を備えた中・小規模ホールがない。
- ◆市民の利用ニーズに合った、利用しやすい規模(中規模から小規模)と機能(芸術性、専門性の高い公演が可能)を備えたホールがない。
- ◆芸術文化活動に取り組む市民が集い、交流する場、市民が気軽に芸術文化に触れる場、芸術文化にかかわる人づくりや、芸術文化を通じたつながりを育む拠点がなくない。

長崎市内のホール型施設の規模や機能等を整理すると次のように整理できます。現状では、市民文化団体が利用しやすい中規模から小規模で、かつ、芸術性や専門性の高い公演に対応できる機能を持つ領域の施設が不足している状況にあります。



基本コンセプト

魅せる・触れる

鑑賞の場として人々を魅了する芸術性と専門性の高い優れた芸術文化の公演や、市民が創り上げた作品など、多様な演目の公演を楽しむことができる。

創る・発信する

市民の芸術文化活動や創作活動の実現と、海外とのつながり、育んできた文化的資源を磨き、長崎らしい芸術文化を創造・発信する。

つながる・育む

誰もがいつでも立ち寄れる開かれた空間とし、芸術文化を通し人が集い・つながり、世代や分野を超えた交流を育む。また、まちとつながり、賑わいを生み、育む。

基本理念

基本理念をどうするか。

(基本理念につながるキーワードと主な意見等)

➤ 長崎固有の歴史や芸術文化を継承する。

- 歴史をつなぐこと、歴史をつくることはとても大事なこと。
- 伝統を守るという考え方は必要。
- 国内外の人が長崎の文化を体感できる場所になるように。
- 長崎らしい文化を認識し、継承していく。
- 長崎の歴史、風土等を反映した特色ある芸術文化の発展を図る必要がある。
- 公会堂で文化団体がやってきた想いを新しいホールに活かすべき。

➤ 世界の平和に貢献する。 ➤ 永遠の平和を願う長崎国際文化センター構想の精神を継承する。

- 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律にもあるように、文化は「世界平和」につながるものである。
- 長崎、広島は「平和」で世界に訴えかけることができるまち。

➤ 国内外の質の高い芸術文化に触れる。 ➤ 芸術文化で世界とつながる。

- 「新たな長崎の出島」という位置付けがいいのではないかな。
- 世界の文化が集まる「現代の出島」としてはどうか。
- 鎖国時代に世界に窓を開いていた長崎だから、世界に発信する施設に。
- 長崎がコンセプトとして提案すべきものは「世界発信」。
- 国内外の芸術家が集まる拠点に。

➤ 「演じる」、「観る」など様々な立場で楽しみ、喜びがあふれる。 ➤ 心の豊かさを実感できる。

- くんちのように、長崎の人がいきいきとやっていることを、外から来た人が一緒に楽しんでもらえるような場になるとよい。
- 時間をかけて目の肥えた、耳の肥えた市民を増やし、市民が求める芸術のレベルを上げていくことが必要。
- いろんな人たちが行きたくなり、空気に触れたくて、留まりたくて、明日を生きる楽しさを感じることができ施設に。
- ホール利用者以外も「あってよかった」と感じてもらえるような施設に。

➤ 人が集い、出会う。 ➤ つながりが生まれる。

- 芸術文化に興味のある人以外も日常的に集い、和むことができる憩いの場になって欲しい。
- たくさんの方が同じことに共感し、楽しめる場所になって欲しい。
- 子どもが遊びに来るような場所になって欲しい。
- 市民が交流する場所になって欲しい。
- 人と人のつながりは重要。芸術文化はその懸け橋になることができる。
- 「人とつながり、人を育み、人が生み出す」、関わりを創造する施設に。

➤ 芸術文化を通じて人を育む。 ➤ 芸術文化の力がまちへ波及する。

- 将来のために、芸術文化を通して子どもたちの想像力を育む必要がある。
- 子どもたちが「あのステージに立ちたい」と思う施設に。
- 芸術の力をうまく社会と融合させ、どうやってまちを面白く、活性化させるかを考えることが必要。
- ホールを使わない人にもいい影響を与えることができるように。
- 人が増えるようなまち、魅力あるまちにするための施設でもあって欲しい。
- これからも変わらない芸術文化の価値は、同じ時間、同じ空間で芸術文化を共有する「関わりの創造」。
- まちの賑わいの拠点となり、他の施設などとの連携により回遊性を創出するとよい。
- 全国の都市が同じような課題を抱えており、芸術文化はその課題をクリアしていくために大きな機能を果たすことができる。

➤ 芸術文化を創造し続ける。

- ちゃんぽんのように違ったジャンルの文化が共生している芸術を長崎で創れたらよい。また、それを支える劇場をつくれるとよい。
- 育んできた文化的資源を磨き、長崎らしい芸術文化を創造・発信する。
- 芸術文化は人々の創造性を育む力を持っている。

コンセプト

魅せる・触れる

創る・発信する

つながる・育む

求められる機能

鑑賞・発表機能

創造支援機能

交流促進機能

高い芸術性と専門性に対応でき、多彩な演目の公演が可能なメインホール

- 優れた芸術文化に触れ、楽しむ場として、芸術性や専門性の高い公演に対応できるホール

使いやすく、市民の創造活動を支える創造支援エリア

- ニーズの高い練習室の複数配置
- メインホールとの一体利用にも使いやすく配置された練習室等
- 市民の芸術文化の創造の場として、演劇、音楽など多彩な利用ニーズに柔軟に対応でき、小規模な発表の場としても活用できる

交流と賑わいを生み出すエリア

- イベントや作品の展示、文化団体のミーティングなど、多目的な利用ができ、公演などがない時にも交流と賑わいをもたらすオープンエリア
- 将来を担う子どもたちが、いつでも芸術文化に触れ、感性を磨くことができる空間など

【メインホール】

- 高い専門性で多様なジャンルに対応できるホールを整備
- 基本的な設備を備え、先端技術を取り込んだ柔軟な対応が可能なホールを整備

【客席関係】

- 座席数は1,000～1,200席程度
- 小規模な公演にも対応できるよう多層構造とする

【舞台関係】

- プロセニウム形式
- 音楽や演劇・舞踊等多様なジャンルの公演に対応できる舞台規模、舞台設備、搬入口等を備える

【創造支援諸室】

- 市民の芸術文化活動を支援する複数の規模・機能を持った創造支援諸室を整備

【機能の例示】

- 小劇場機能を持ち公演会場としての利用ができるリハーサル室、日常的な練習場所として利用できる練習室等

【交流促進機能】

- 市民や観光客の多様な交流の場となり、市民の主体的な交流活動のほか多様なイベントが開催できる諸室やスペースを整備

【機能の例示】

- 市民ギャラリー、多目的スペース、情報発信スペース等

長崎市のホール型施設の概要

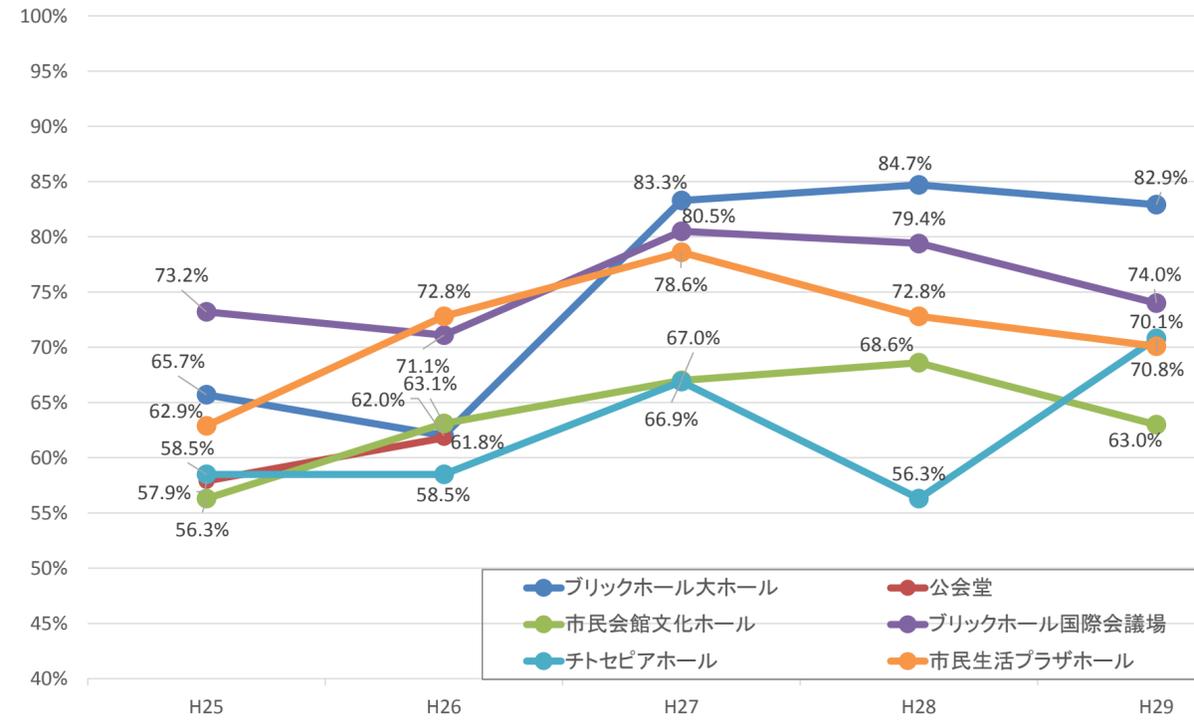
資料2

施設名		ブリックホール 大ホール	旧長崎市公会堂	市民会館文化ホール	ブリックホール 国際会議場	チトセピアホール	メルカつきまち 市民生活プラザホール					
施設概要		【住所】茂里町 2-38 【開館】1998年10月1日 【施設】 楽屋 9、会議室 5、練習室 3、 リハ室 1、特別室 3、和室 2、 茶室 1、ギャラリー	【住所】魚の町 4-30 【開館】1962年6月2日 【施設】 楽屋 4、会議室 2	【住所】魚の町 5-1 【開館】1974年3月7日 【施設】 楽屋 5、会議室 9、音楽室 1、 リハ室 1、和室 2、展示室 1	【住所】茂里町 2-38 【開館】1998年10月1日 【施設】 楽屋 9、会議室 5、練習室 3、 リハ室 1、特別室 3、和室 2、 茶室 1、ギャラリー	【住所】千歳町 5-1 【開館】1991年11月1日 【施設】楽屋 4	【住所】築町 3-18 【開館】1998年9月19日 【施設】控室 2、楽屋 2、パン トリー、会議室 3（可動式）					
ホール座席数		2,002 席	1,751 席	977 席	426 席（最大 542 席）	500 席	274 席					
舞台機構	舞台間口（m）	20.6	18.2	15	13	12	10					
	舞台奥行（m）	20	15	10	4	7.3	5					
	舞台面積（㎡）	412	273	134.3	52	87.6	73					
	高さ（m）※1	12	9	8	7.28	5.7	6.7					
	すのこ高（m）	29.3	19.5	8.2	—	9.1	—					
	音響反射板	あり	あり	あり	なし	あり	なし					
	バトン（本）	28	10	4	1	4	2					
利用状況の特徴	主催者 ※2	・「イベント」の割合が高く、興行が多く開催されている。 ・旧公会堂の閉館以降、「文化団体」の利用割合が増加傾向にある。	・「文化団体」の割合が最も高い。	・「文化団体」、「学校」の割合が高い。 ・旧公会堂の閉館以降、「文化団体」の割合が増加傾向にある。	・「その他」の割合が最も高い。	・「その他」の割合が最も高い。	・「その他」、「行政・行政共催」の割合が最も高い。					
	ジャンル ※3	・「音楽関係」の割合が最も高い。 ・学会・大会等が含まれる「式典・講演会等」の割合も高い。	・各ジャンルがほぼ同程度（約 20%）の割合となっている。	・「音楽関係」、「式典・講演会等」の割合が高い。	・「式典・講演会等」の割合が高く、約 65%を占める。 ・芸術文化の催事では「音楽関係」の割合が高い。	・「音楽関係」の割合が最も高い。	・「式典・講演会等」の割合が高く、約半分を占める。					
稼働率（%）	H25 年度	65.7	H25 年度	57.9	H25 年度	56.3	H25 年度	73.2	H25 年度	58.5	H25 年度	62.9
	H26 年度	62.0	H26 年度	61.8	H26 年度	63.1	H26 年度	71.1	H26 年度	58.5	H26 年度	72.8
	H27 年度	83.3	H27 年度	—	H27 年度	67.0	H27 年度	80.5	H27 年度	66.9	H27 年度	78.6
	H28 年度	84.7	H28 年度	—	H28 年度	68.6	H28 年度	79.4	H28 年度	56.3	H28 年度	72.8
	H29 年度	82.9	H29 年度	—	H29 年度	63.0	H29 年度	74.0	H29 年度	70.8	H29 年度	70.1
利用者数（人）	H25 年度	192,482	H25 年度	133,422	H25 年度	59,892	H25 年度	43,341	H25 年度	49,415	H25 年度	36,836
	H26 年度	187,965	H26 年度	146,272	H26 年度	58,893	H26 年度	50,410	H26 年度	40,318	H26 年度	55,510
	H27 年度	221,452	H27 年度	—	H27 年度	86,525	H27 年度	51,253	H27 年度	45,459	H27 年度	58,232
	H28 年度	230,017	H28 年度	—	H28 年度	95,136	H28 年度	49,249	H28 年度	40,392	H28 年度	41,572
	H29 年度	247,477	H29 年度	—	H29 年度	81,586	H29 年度	50,420	H29 年度	45,713	H29 年度	31,067

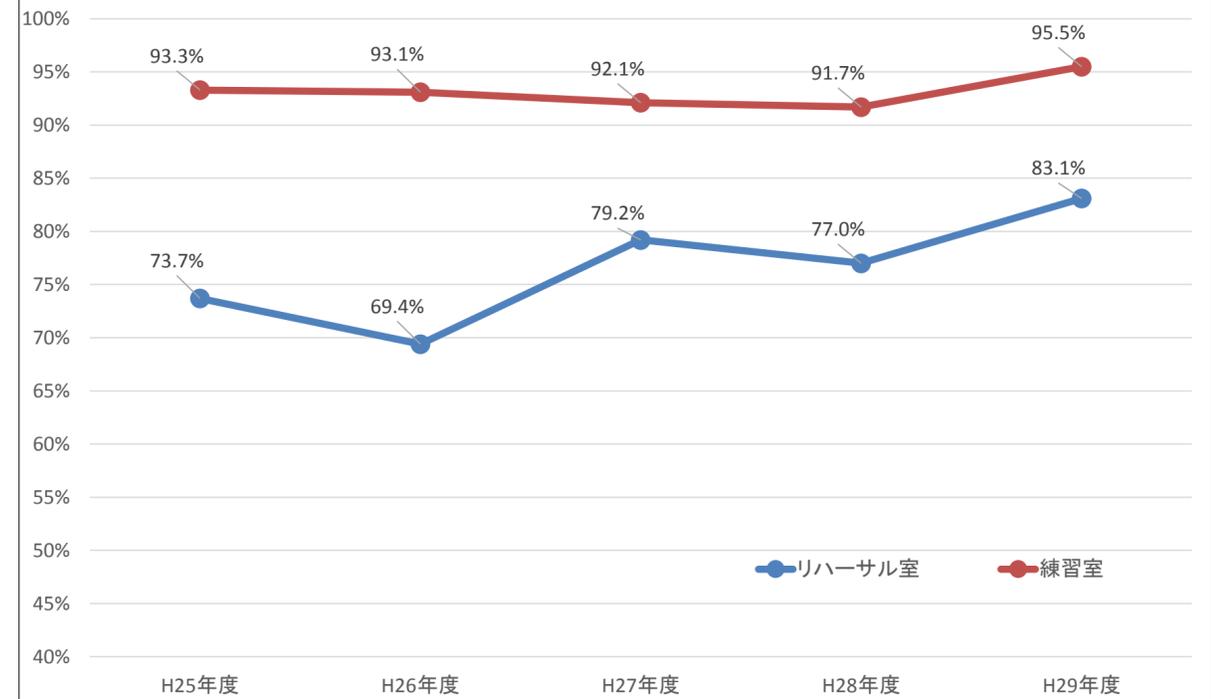
※1 プロセニアムアーチ（ホールの観客席から見て舞台を額縁のように区切る構造物）の高さを示す。 ※2 主催者区分：「行政・行政共催」「学校」「文化団体」「社会関係団体」「イベント」「その他」 ※3 ジャンル：「音楽関係」「演劇関係」「ダンス・バレエ・舞踊」「落語・講演会など」「その他」 詳細な区分は P7 を参照。

利用状況分析（稼働率、利用者数）

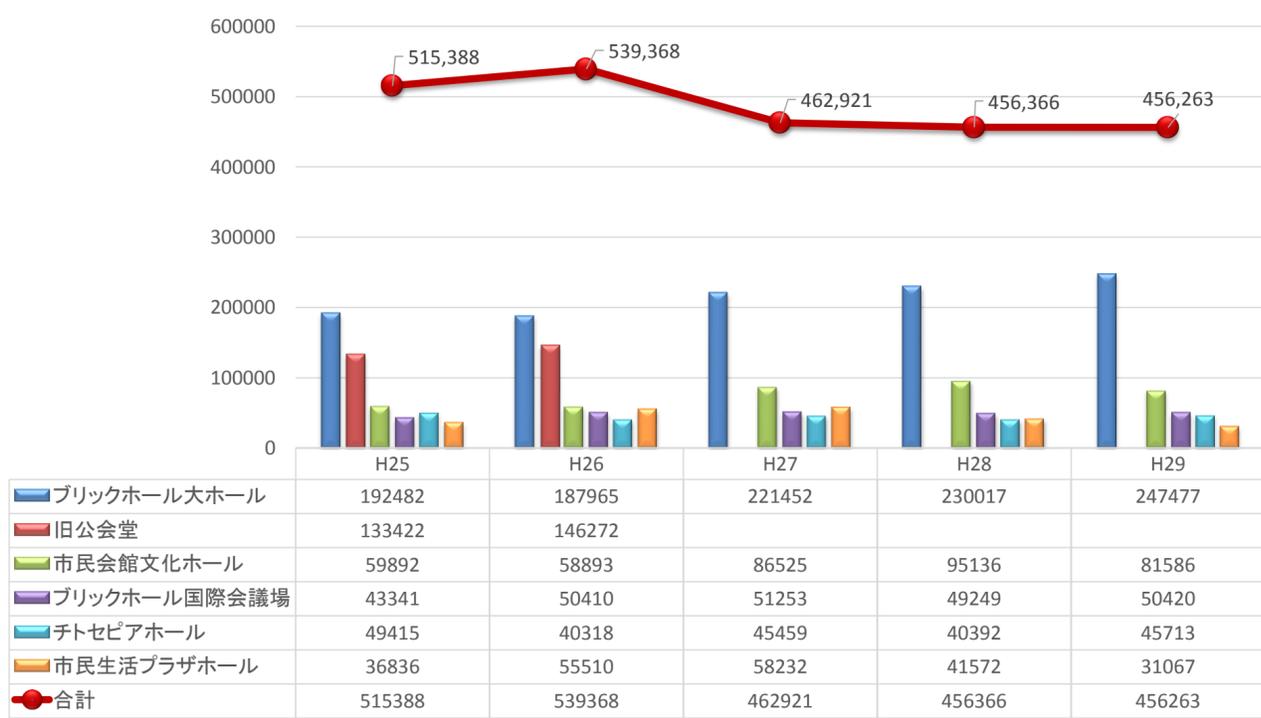
ホール型施設の稼働率の推移



ブリックホール 練習室・リハーサル室の稼働率の推移



ホール型施設の利用者数の推移

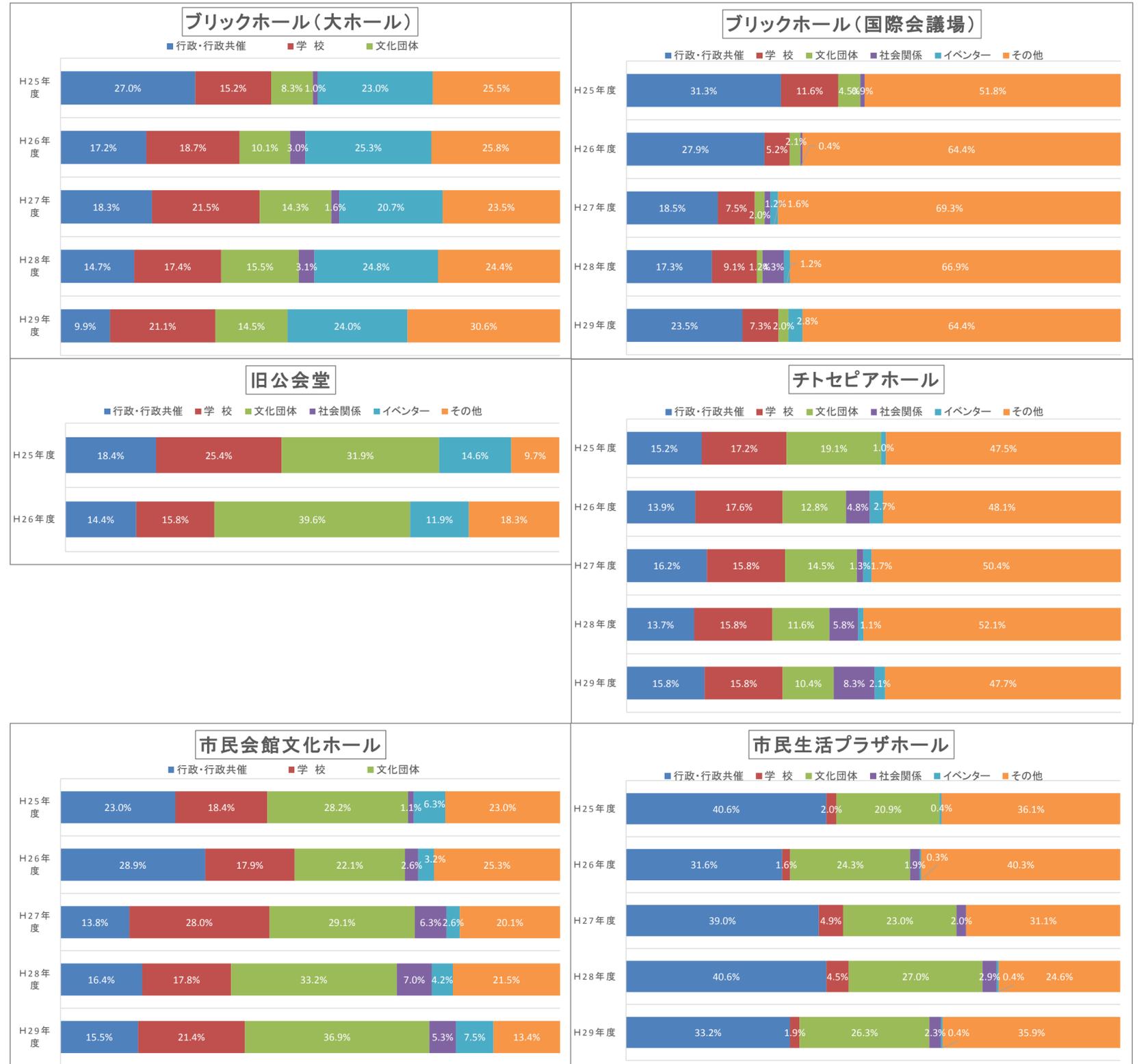


利用状況分析（主催者別）

【利用件数】

		行政・行政共催	学校	文化団体	社会関係	イベント	その他	合計
ブリックホール (大ホール)	H25年度	55	31	17	2	47	52	204
	H26年度	34	37	20	6	50	51	198
	H27年度	46	54	36	4	52	59	251
	H28年度	38	45	40	8	64	63	258
	H29年度	24	51	35	0	58	74	242
	計	197	218	148	20	271	299	1,153
旧公会堂		行政・行政共催	学校	文化団体	社会関係	イベント	その他	合計
	H25年度	34	47	59	0	27	18	185
	H26年度	29	32	80	0	24	37	202
	計	63	79	139	0	51	55	387
市民会館 文化ホール		行政・行政共催	学校	文化団体	社会関係	イベント	その他	合計
	H25年度	40	32	49	2	11	40	174
	H26年度	55	34	42	5	6	48	190
	H27年度	26	53	55	12	5	38	189
	H28年度	35	38	71	15	9	46	214
	H29年度	29	40	69	10	14	25	187
計	185	197	286	44	45	197	954	
ブリックホール (国際会議場)		行政・行政共催	学校	文化団体	社会関係	イベント	その他	合計
	H25年度	70	26	10	2	0	116	224
	H26年度	65	12	5	1	0	150	233
	H27年度	47	19	5	3	4	176	254
	H28年度	44	23	3	11	3	170	254
	H29年度	58	18	5	0	7	159	247
計	284	98	28	17	14	771	1,212	
チトセピアホール		行政・行政共催	学校	文化団体	社会関係	イベント	その他	合計
	H25年度	31	35	39	0	2	97	204
	H26年度	26	33	24	9	5	90	187
	H27年度	38	37	34	3	4	118	234
	H28年度	26	30	22	11	2	99	190
	H29年度	38	38	25	20	5	115	241
計	159	173	144	43	18	519	1,056	
市民生活プラザ ホール		行政・行政共催	学校	文化団体	社会関係	イベント	その他	合計
	H25年度	101	5	52	0	1	90	249
	H26年度	99	5	76	6	1	126	313
	H27年度	119	15	70	6	0	95	305
	H28年度	99	11	66	7	1	60	244
	H29年度	86	5	68	6	1	93	259
計	504	41	332	25	4	464	1,370	

【利用割合】

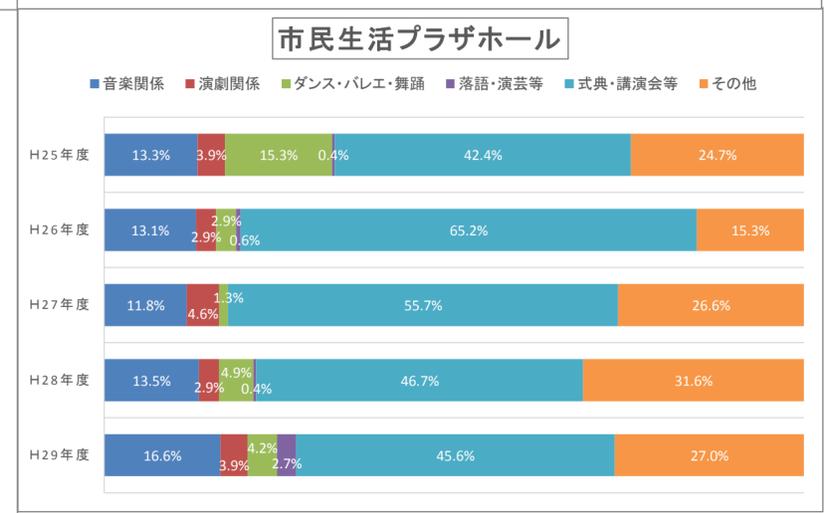
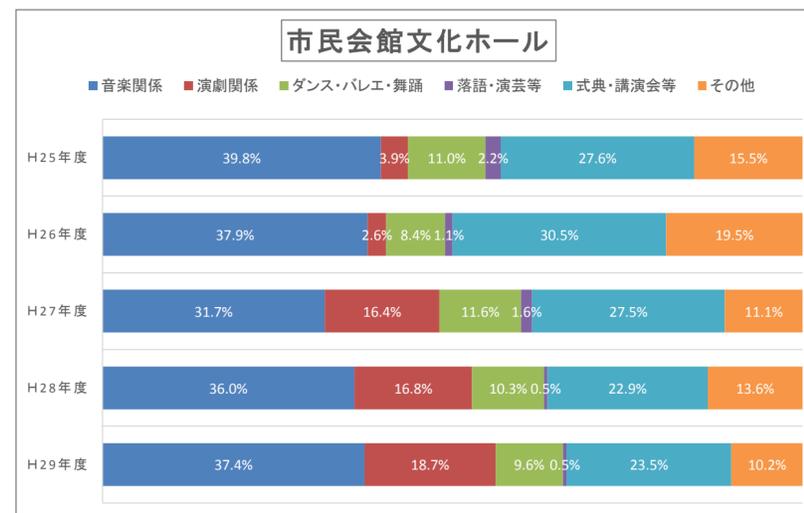
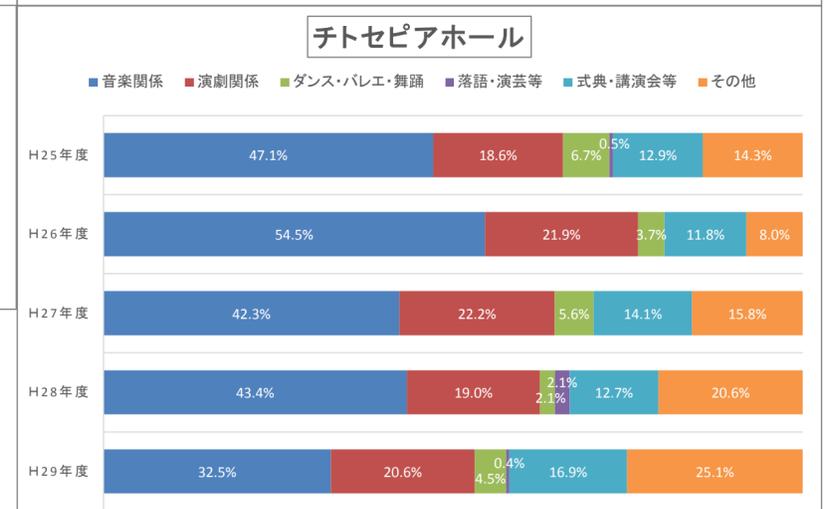
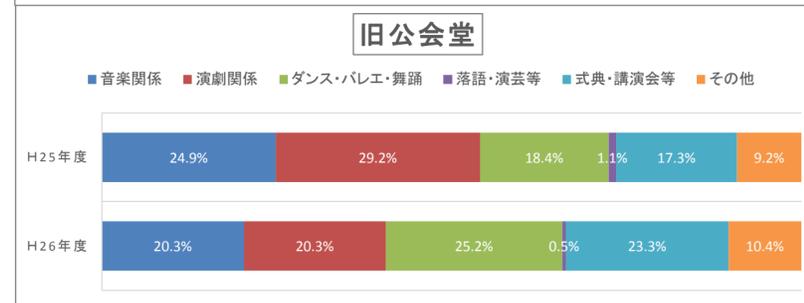
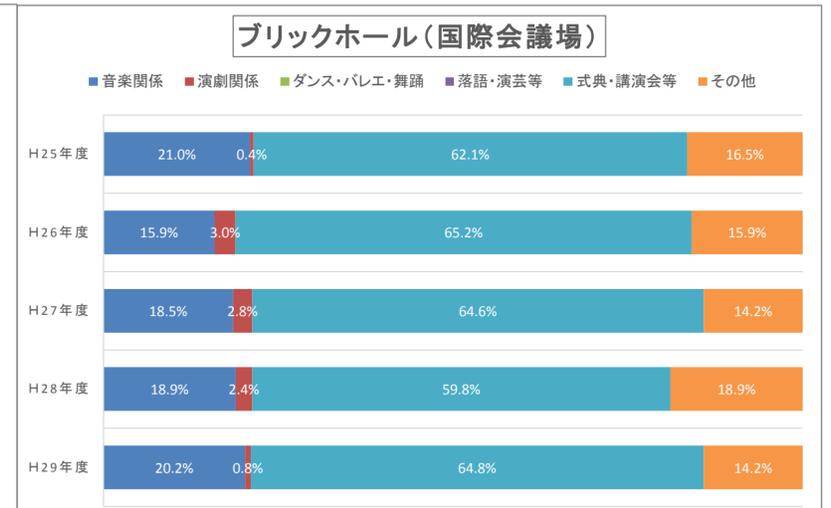
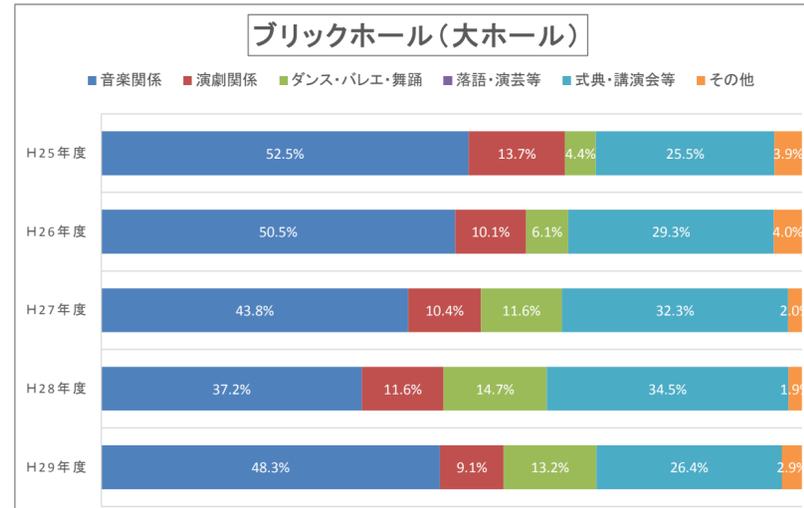


利用状況分析（ジャンル別）

【利用件数】

		音楽関係	演劇関係	ダンス・バレエ・舞踊	落語・演芸等	式典・講演会等	その他	合計
ブリックホール (大ホール)	H25年度	107	28	9	0	52	8	204
	H26年度	100	20	12	0	58	8	198
	H27年度	110	26	29	0	81	5	251
	H28年度	96	30	38	0	89	5	258
	H29年度	117	22	32	0	64	7	242
	計	530	126	120	0	344	33	1,153
旧公会堂		音楽関係	演劇関係	ダンス・バレエ・舞踊	落語・演芸等	式典・講演会等	その他	合計
	H25年度	46	54	34	2	32	17	185
	H26年度	41	41	51	1	47	21	202
計	87	95	85	3	79	38	387	
市民会館 文化ホール		音楽関係	演劇関係	ダンス・バレエ・舞踊	落語・演芸等	式典・講演会等	その他	合計
	H25年度	72	7	20	4	50	28	181
	H26年度	72	5	16	2	58	37	190
	H27年度	60	31	22	3	52	21	189
	H28年度	77	36	22	1	49	29	214
	H29年度	70	35	18	1	44	19	187
計	351	114	98	11	253	134	961	
ブリックホール (国際会議場)		音楽関係	演劇関係	ダンス・バレエ・舞踊	落語・演芸等	式典・講演会等	その他	合計
	H25年度	47	1	0	0	139	37	224
	H26年度	37	7	0	0	152	37	233
	H27年度	47	7	0	0	164	36	254
	H28年度	48	6	0	0	152	48	254
	H29年度	50	2	0	0	160	35	247
計	229	23	0	0	767	193	1,212	
チトセピアホール		音楽関係	演劇関係	ダンス・バレエ・舞踊	落語・演芸等	式典・講演会等	その他	合計
	H25年度	99	39	14	1	27	30	210
	H26年度	102	41	7	0	22	15	187
	H27年度	99	52	13	0	33	37	234
	H28年度	82	36	4	4	24	39	189
	H29年度	79	50	11	1	41	61	243
計	461	218	49	6	147	182	1,063	
市民生活プラザ ホール		音楽関係	演劇関係	ダンス・バレエ・舞踊	落語・演芸等	式典・講演会等	その他	合計
	H25年度	34	10	39	1	108	63	255
	H26年度	41	9	9	2	204	48	313
	H27年度	36	14	4	0	170	81	305
	H28年度	33	7	12	1	114	77	244
	H29年度	43	10	11	7	118	70	259
	計	187	50	75	11	714	339	1,376

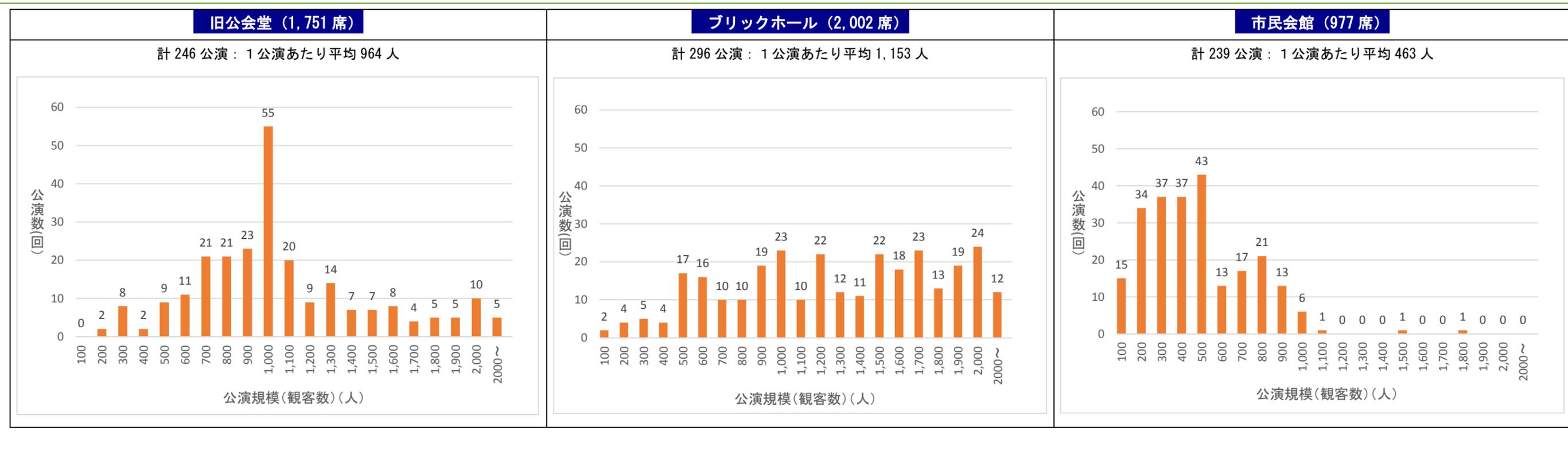
【利用割合】



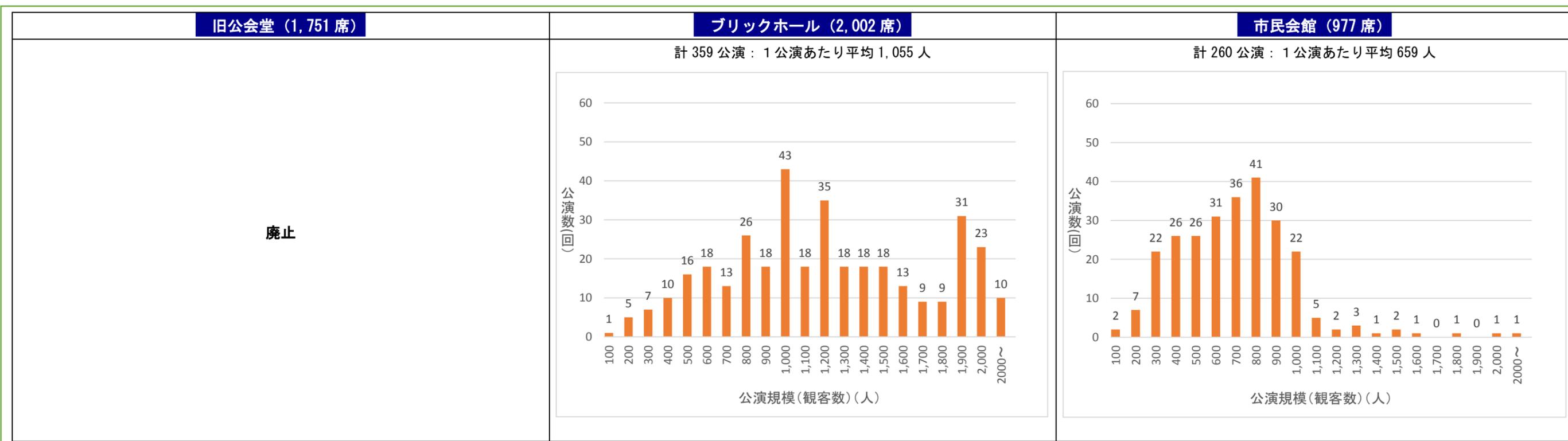
公演規模（観客数）別公演数の推移

1 ホールごとの比較

(1) 平成 25～26 年度（旧公会堂廃止前）



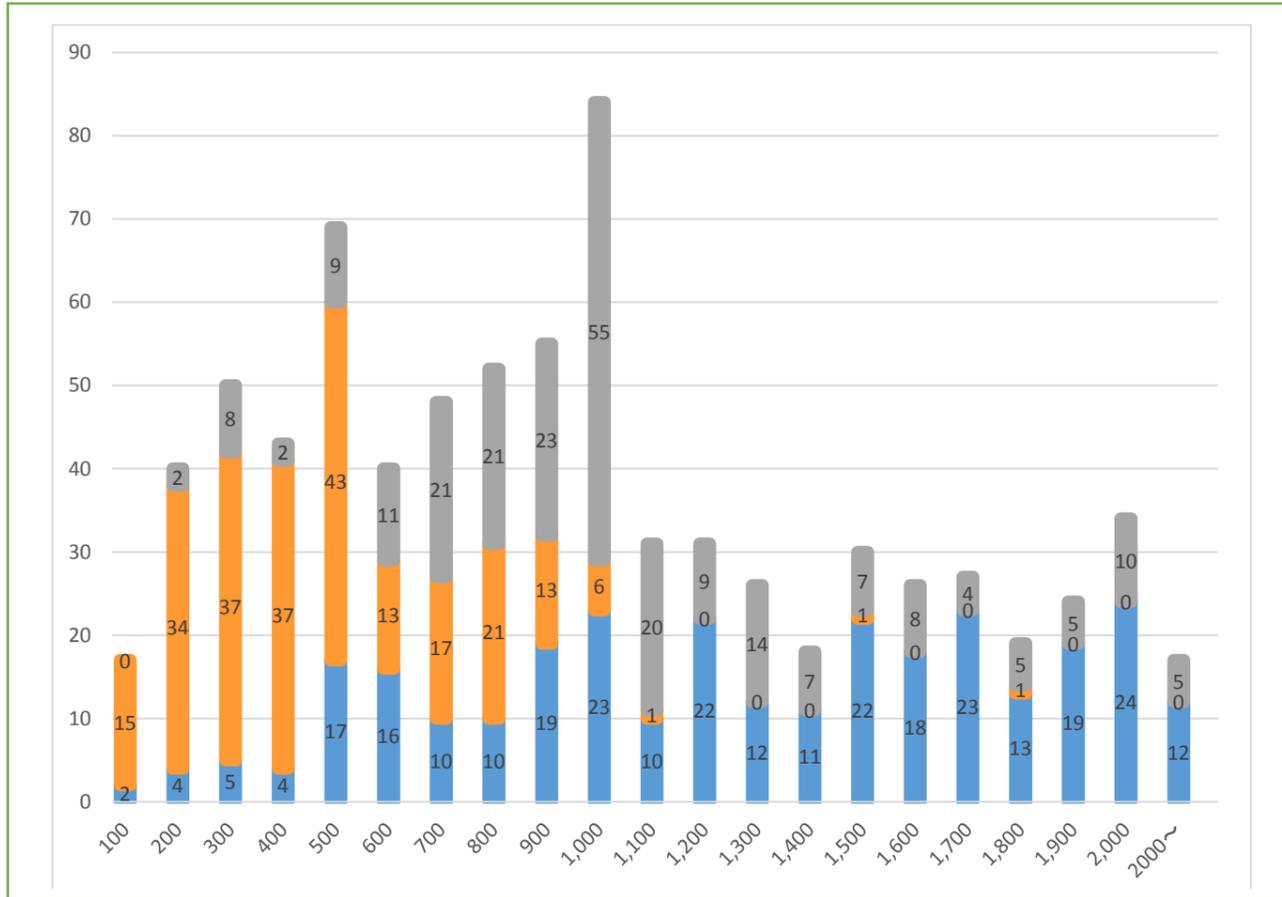
(2) 平成 27～28 年度（旧公会堂廃止後）



2 3ホール（旧公会堂・ブリックホール・市民会館）の公演数合計での比較

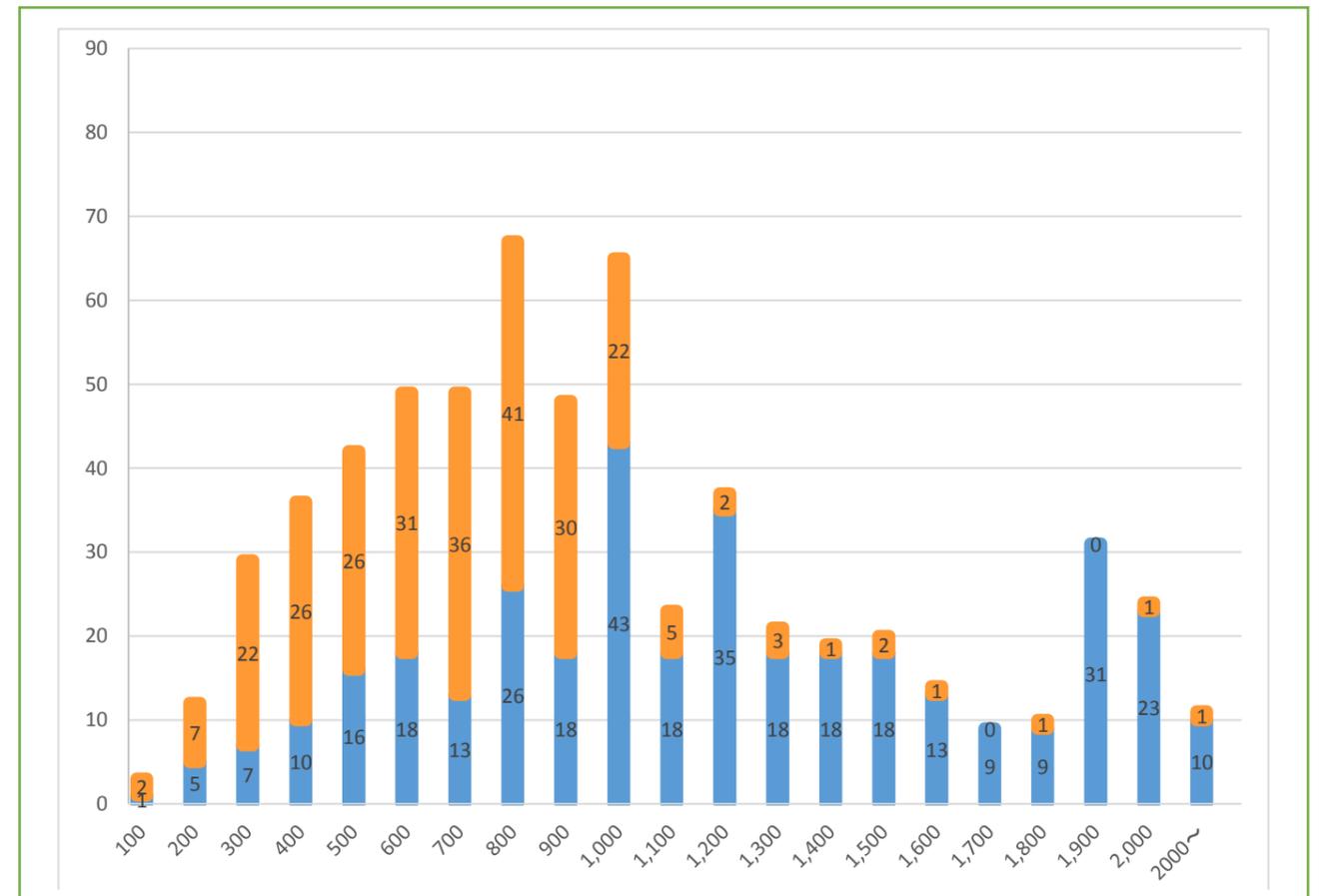
(1) 平成 25～26 年度（旧公会堂廃止前）

公演数 計 781 件（ブリック 296 件・市民会館 239 件・公会堂 246 件）



(2) 平成 27～28 年度（旧公会堂廃止後）

公演数 計 619 件（ブリック 359 件・市民会館 260 件）



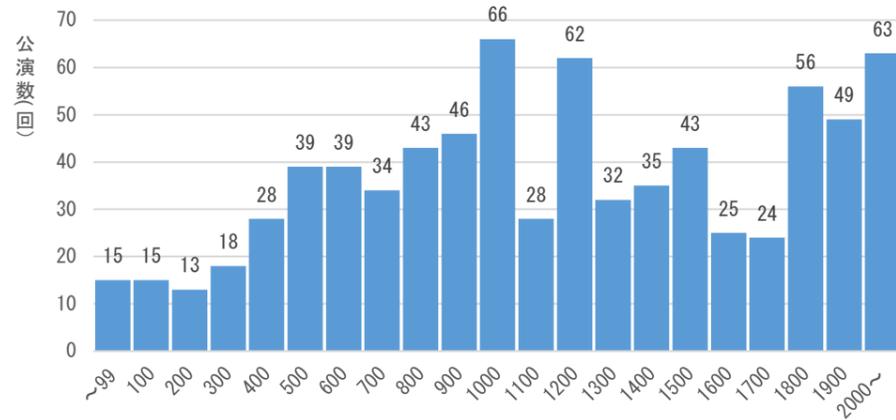
凡例 ■ ブリックホールの公演数 ■ 市民会館の公演数 ■ 旧公会堂の公演数

ブリックホール利用状況分析 (H25~H29)

1 公演あたりの入場者数

公演数合計
854 回

1 公演あたり平均
1,207 人



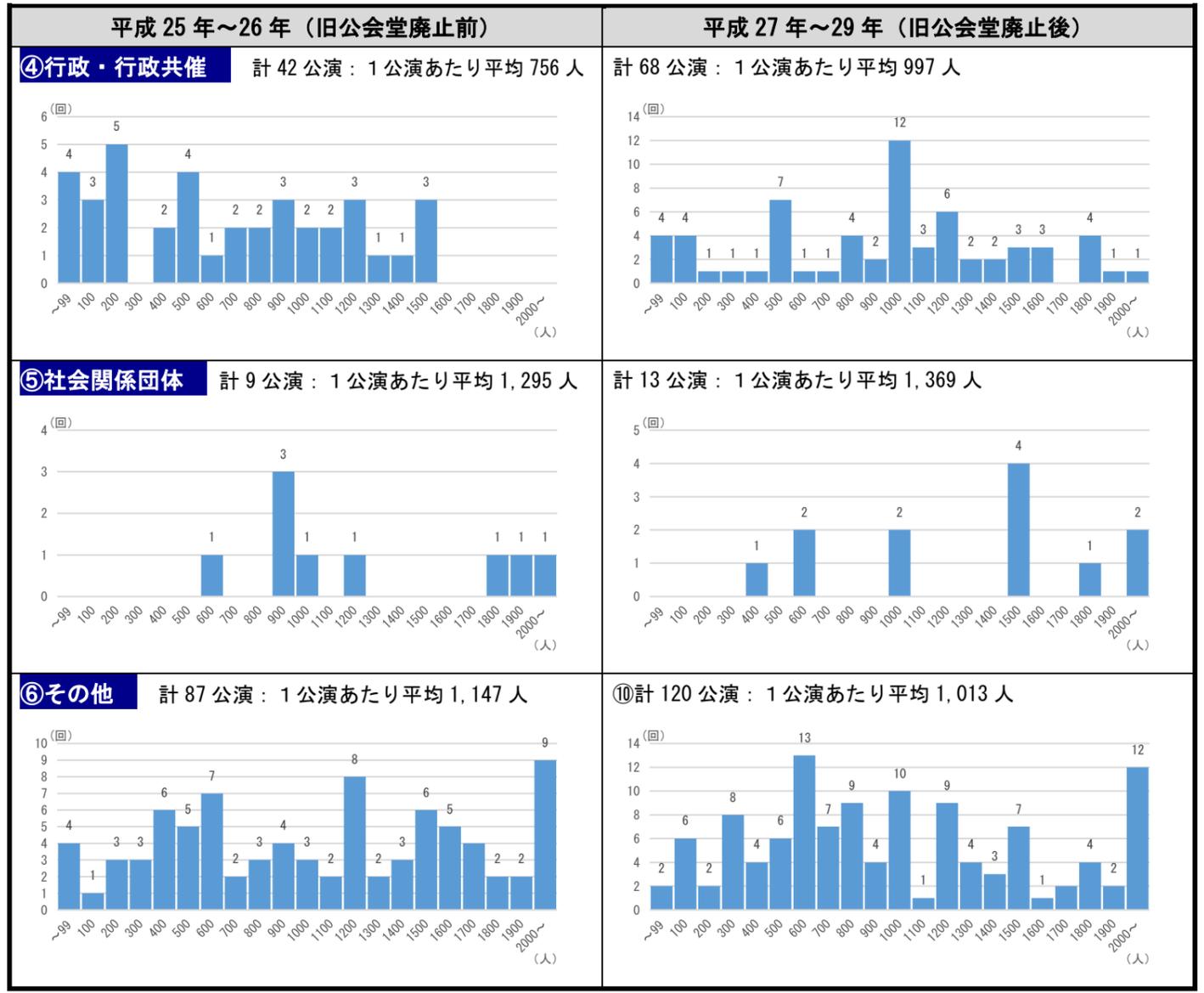
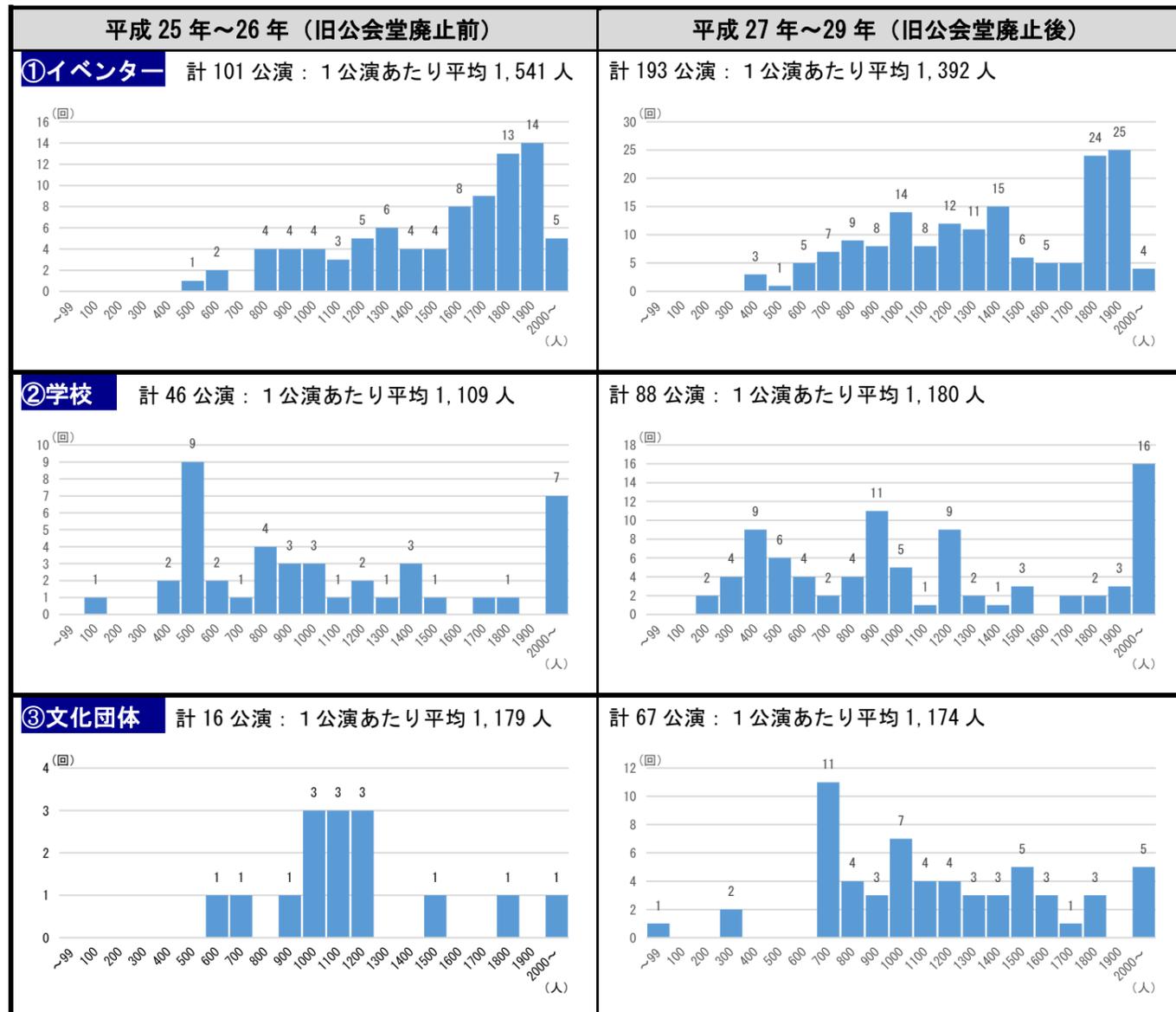
※「100」…100~199を表す。 1公演あたり人数 (人)
(以下同様)

○H25~H29の1公演あたりの平均入場者数は1,207人で、入場者数区分別で見ると1,000~1,099人の公演が66回で最も多くなっている。

○旧公会堂廃止前後での平均入場者数の推移をみると、主催者別では、公演数が最も多い「イベント」主催公演の平均入場者数が約10%減少している。一方で「学校」、「文化団体」は横ばい、「行政・行政共催」、「社会関係団体」は増加傾向となっている。

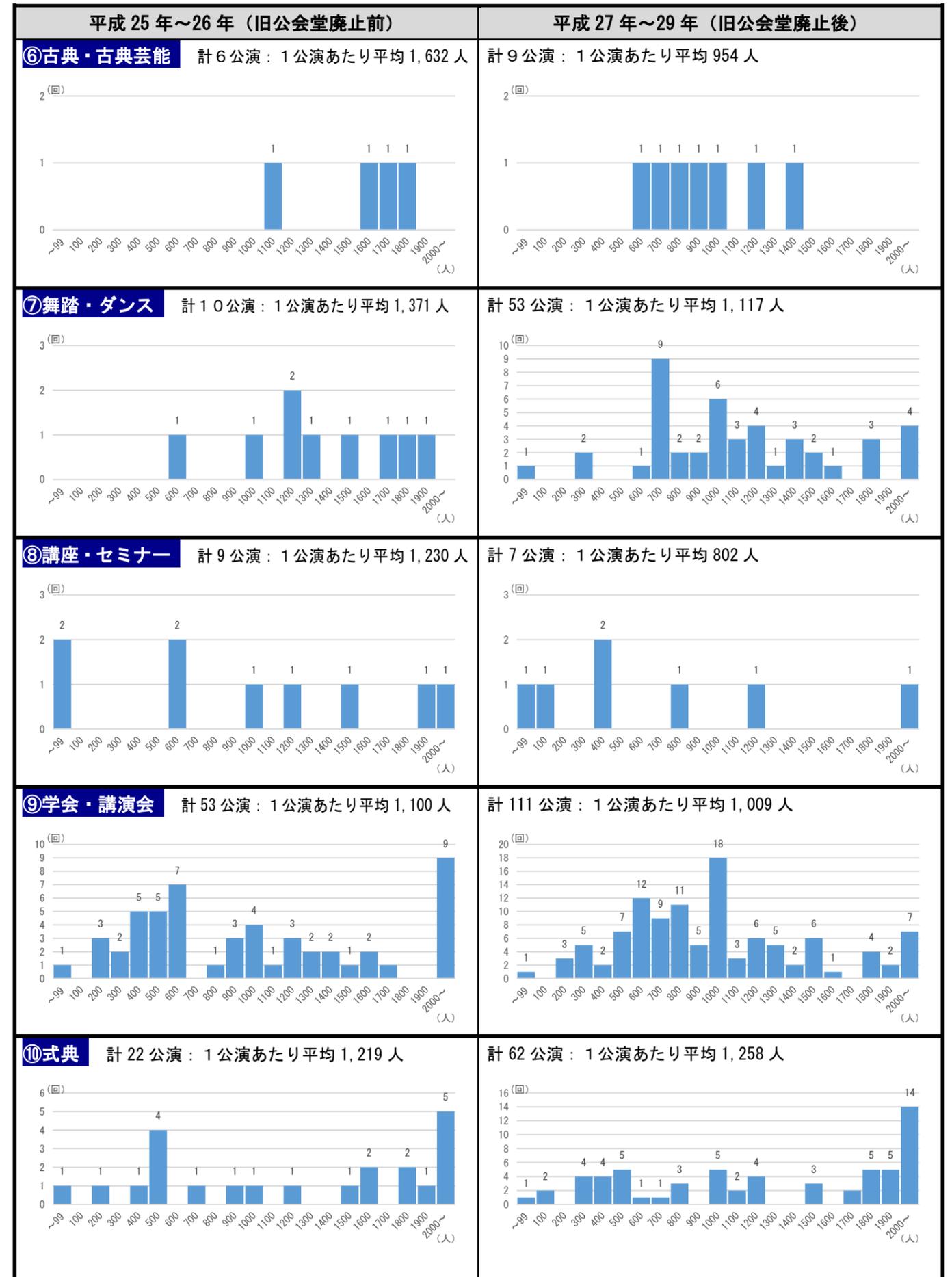
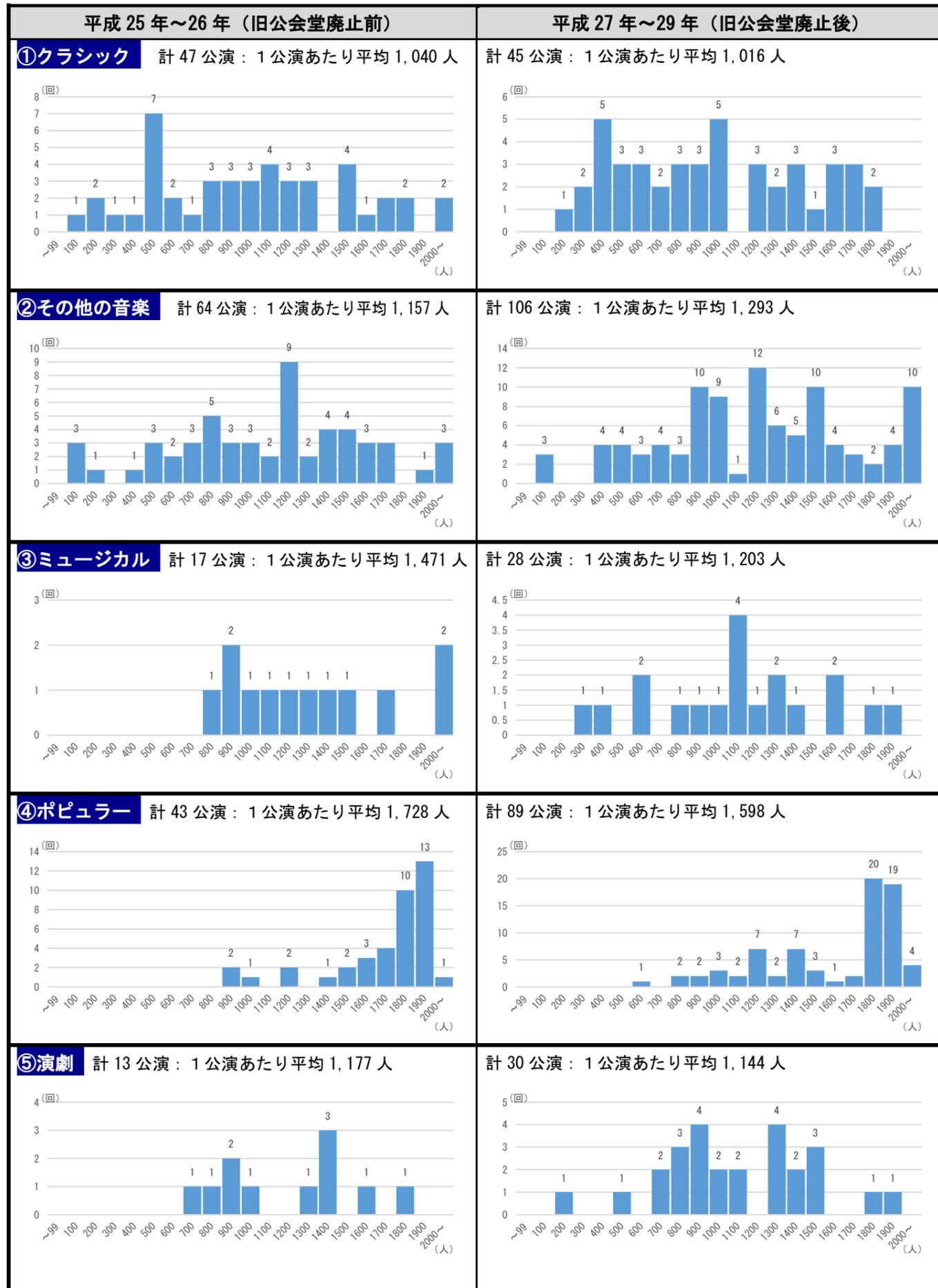
また、使用区分別で見ると、全10区分中、6区分で減少傾向がみられた。これは旧公会堂廃止に伴い、比較的小規模な公演がブリックホールへスライドしたことが一つの要因であると推察される。

1. 主催者別



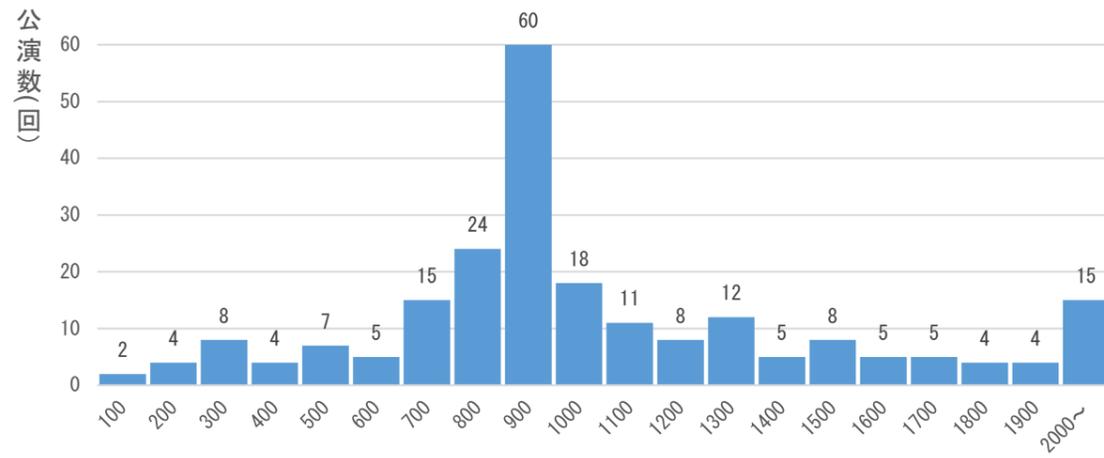
注) 公演数はデータベースシステムの関係上、タイトルに記載した合計値は1日2公演の場合「2」としてカウントするが、規模別区分(棒グラフ)では「1」としてカウントするため、グラフ上の数値の合計と、タイトル記載の合計公演数は一致しない。

2. 使用区分別



公会堂利用状況分析 (H25~H26) 1公演あたりの入場者数

公演数合計
249回
1公演あたり平均
1,068人

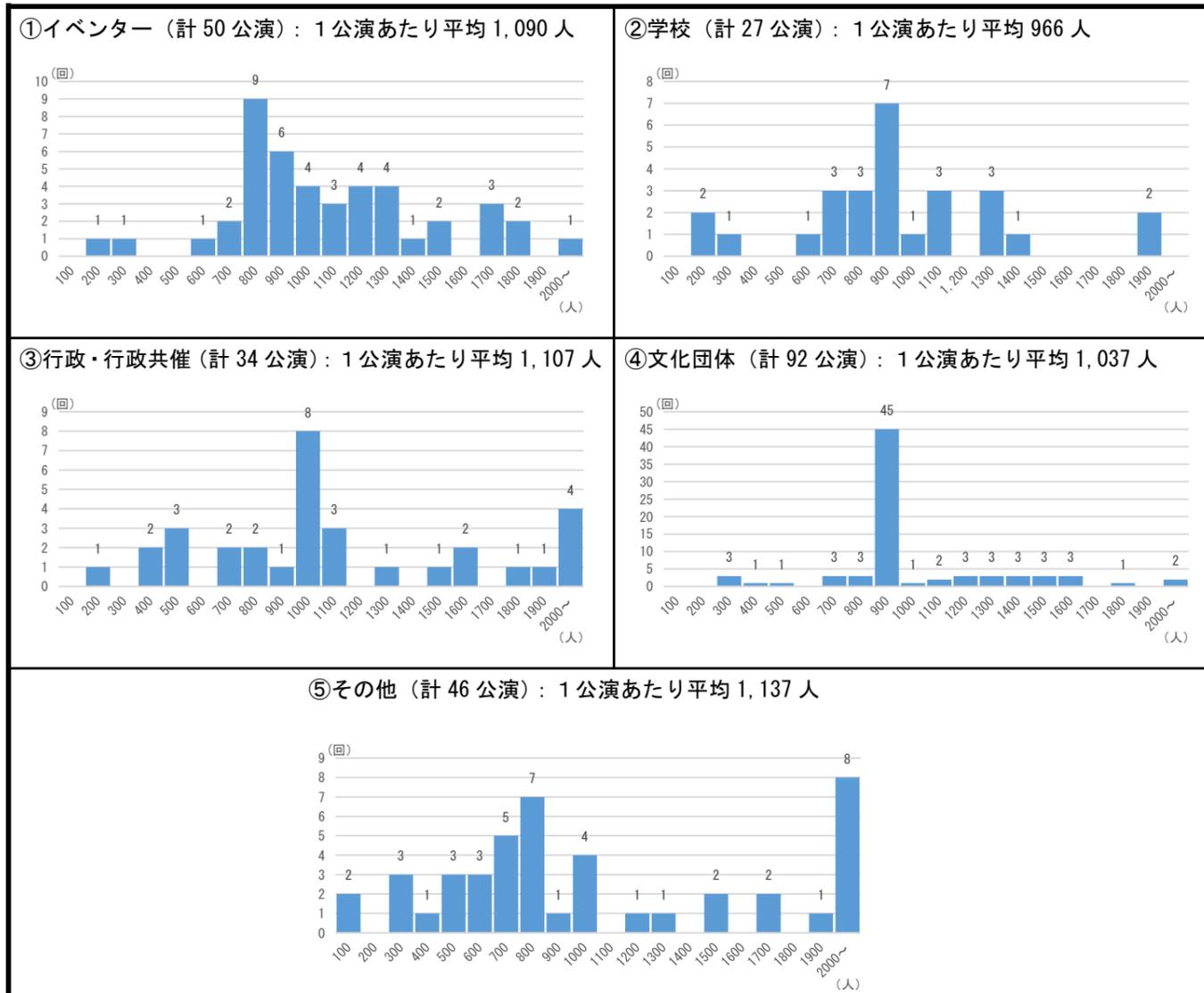


※「100」…100~199を表す。(以下同様)
1公演あたり人数 (人)

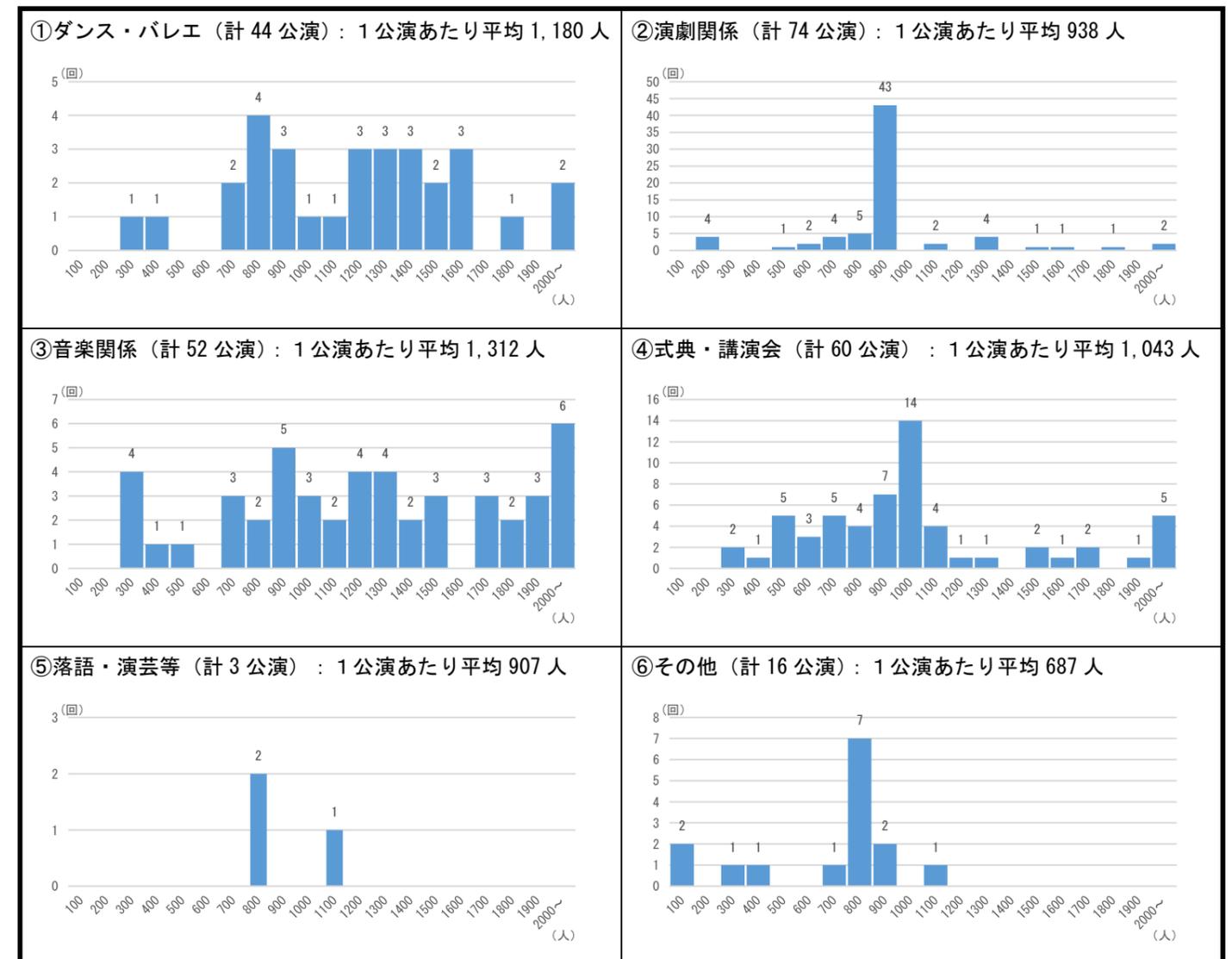
○H25~H26の1公演あたりの平均入場者数は1,068人で、入場者数区分別でみると900~999人の公演が60回で最も多くなっている。

○主催者別に平均入場者数をみると、「学校」が966人で最も少なく、「その他」が1,137人で最も多い。公演数が最も多い「文化団体」では全体の58%が900~999人規模の公演であった。一方、ジャンル別では「音楽関係」が1,312人で最も多くなっている。公演数が最も多い「演劇関係」では全体の6割が900~999人規模の公演であった。

1. 主催者別



2. ジャンル別



注) 公演数はデータベースシステムの関係上、タイトルに記載した合計値は1日2公演の場合「2」としてカウントするが、規模別区分(棒グラフ)では「1」としてカウントするため、グラフ上の数値の合計と、タイトル記載の合計公演数は一致しない。